

「大人になれなかつた弟たちに……」(一年第二単元)

教材化の工夫を考える会

受け身の学習から主体性のある学びへ 生徒が自らの学びを自覚できる授業作り

はじめに

これまで国語科の学習を行ってきた、不安になることがある。それは、「学習を通して、生徒たちにどのような力が身についたのであろうか。」「ということである。実際、生徒たちにこれまで学んできたことを確認してみると、教科書の内容を口にすることはできても、授業を通してどのようなことができるようになったと話をすることはまずない。このような現実が、中学生の国語科に対する意欲の低下を招いていることの一要因になっているのではないかと考える。

そこでわたしは、単元の導入段階で、「何を学習するのか」といった目標設定に重きをおくべきではないかと考えた。そうすることで、「教科書に載っているから学習する」という受け身の姿勢から、「どのような力をこの教材で身につけたい」という学習の必然性や目的をもった主体性のある学びに変化させられると考えるからである。

本単元「物語を楽しむ」においても、何を学習していくのかを生徒とともに考えながら学習を進めていくことにした。

一 導入から目標設定まで

学ぶことの意味を考える (1/5)

本単元は、「麦わら帽子」と「大人になれなかつた弟たちに……」の二つの読み物教材と「感想を伝え合おう」「わたしの一冊」を紹介しよう」という二つの表現教材とからなる。

二つの読み物教材での学習を生かして、表現教材での学習を組み立てることを一つの学習活動とするが、それらの活動を結ぶものとしてどのような国語の力を設定するのか思案するところであった。

学習を始めるに先立ち、生徒たちは、「物語を読むこと」をどのようにとらえているのであろうか。これまでの物語の学習経験を直接尋ねてみることにした。

T 小学校でどんな物語を勉強したの。

S 「スイミー」、「スーホの白い馬」、「大きなかぶ」、「こんぎつね」……。

いくつかの作品名が挙げられた。そこで、それらの作品でどのようなことを学習してきたか、印象深く残っていることをさらに質問した。

- T じゃ、どんなことを学習したの。
- S 黒い小さな魚が、小さな魚たちに呼びかけて大きな魚を退治したこと。
- S 白馬が狼と戦ったこと。
- S ごんぎつねが魚や山でとれたものを届けたけど、撃たれて死んでしまったこと。
- T ふっん、そういう話を読んで何を勉強したのかな。
- S ……。

自分たちが何を学んできたのか、なかなか口にできない状態が続いた。その後、グループでの話し合いを通して、「協力することの大切さ」「スイミー」、「大きなかぶ」といったそれぞれの作品の主題めいたものが発表されてきた。過去の学習経験と振り返り、自分の言葉で表現することが、目標設定の手がかりにもなると考える。次に、本単元の学習計画について、読みの二教材を読

この質問を生徒たちに投げかけることで、生徒たち自身が、ここでの学習を通してどのような姿に到達したいかを考えることができるのである。また、学習を終えた後で、身についた国語の力を自己認識できるように考える。

- 今回、生徒から出てきたのは
- 1 主題がわかること。
- 2 登場人物の気持ちが変わること。
- 3 あらすじがまとめられること。

第一次の学習との関連も踏まえ、今回の学習は、登場人物の気持ちをとらえたり、あらすじをまとめたりしながら、作品の主題をとらえることを中心に展開することを確認した。これらの力を学習者自らが意識しながら読むむといつ点で、これまでの学習とは大きく異なるのではないだろうかと考える。

二 学習目標と学習課題づくり

教えたことから学びたいことへ (2/5)
学習目標の設定と同時に、「大人になれなかった弟たち」……」の初発の感想(短冊シート)を集めた。生徒たちの感想や疑問をまとめてみると、初読の段階である程度内容を把握していることがうかがえた。

み比べ、共通する点や異なる点を探す活動を第二次で行う、といつことを説明した。そして、戦争中という特殊な状況から現代に近い一般的な状況へ内容を変化させるほうが生徒は考えやすいのではないかと考え、中心教材に「大人になれなかった弟たちに……」を据え、比較教材として「麦わら帽子」をあてることにした。

第一次「大人になれなかった弟たちに……」(五時間)

本文を読んで、内容を理解するとともに物語の読み方を学ぶ。

第二次「麦わら帽子」(一時間)

本文を読んで、「大人になれなかった弟たちに……」との共通する点や異なる点などについて読み比べを行う。

第三次「自分だけの一冊」を紹介しよう(二時間)

これまで学習してきた二作品のテーマと共通する作品を、これまでの読書体験の中から探して紹介し合う。

第一次の目標設定は、次のようにして行った。

T 「物語を読む、物語がわかる」って、どいついふことができるようになったらいいのかな。

初発の感想(短冊シート)



この短冊シートは、次時に学習課題を設定するために使用することができる。学習課題の設定にあたっては、短冊シートを登場人物ごとに分類したり、場面ごとに分類したりして、一覧表にまとめ直す作業を行った。（次時の学習で学習課題の設定が行いやすいように、順番は教師側で意図的に並べ替える。）

生徒たちは教師によってまとめ直された一覧表をもとにして、この教材で学習するクラス課題を設定した。なお、クラス課題として集約されなかった疑問は、個人課題として残すと同時に、教師側も学習を進める中で、すべての課題に触れられるように努めることにする。

第一次で「大人になれなかった弟たちに……」を学習していくにあたり、登場人物の心情について考えたり、物語の展開に沿って作品の伝えたかったことを読み取ったりして、主題をまとめるために、次のような学習課題を設定した。

【学習課題】

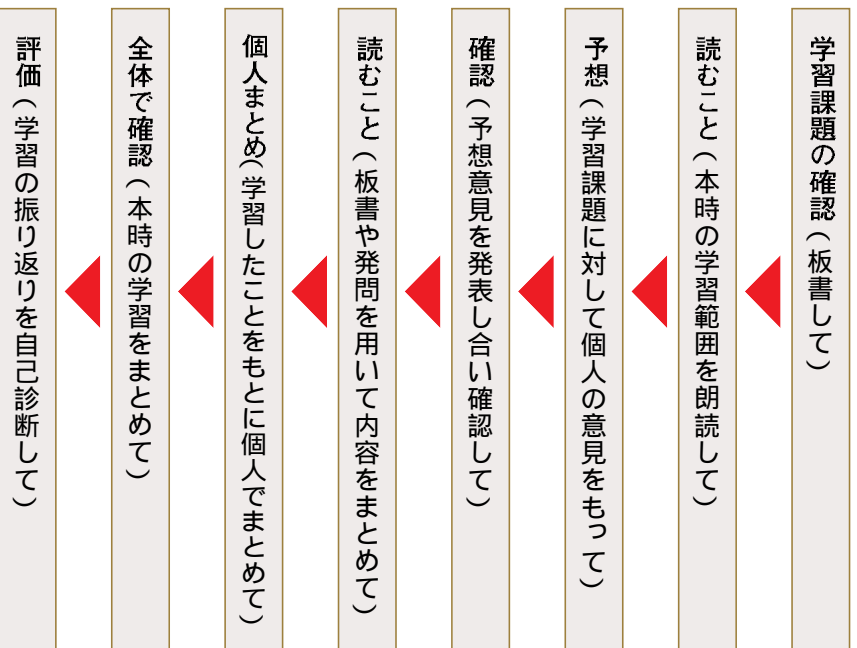
- 弟のミルクを盗み飲みした僕の行動について考えよう。（初め～p95L9）
- 疎開先での生活や疎開するまでの悩みを読み取ろう。（p95L10～p99L3）
- ヒロコキの死を通して感じた思いをとらえ、戦争について考えよう。（p99L4～終わり）



生徒の一単位時間のノート（学習課題）

三 授業の実際

ねらいを明確にした授業（3/5～5/5）
先に示した学習課題の解決に向けて読みの授業を進めていく。一単位時間のおおまかな学習の流れは次のとおりである。



ここでの学習では、予想段階で、弟のミルクを飲むべきではなかったという意見と、しかたがなかったという意見が出てきた。初めは、どちらの意見が正しいかという二者択一的な雰囲気では生徒たちは考えていた。しかし、「かわいくてかわいくてしかたのない弟のミルクを飲むことは悪いことだとわかっていたのに、それでも飲んでしまったのはなぜだろう。」という問いへの答えを読み取っていく中で、「僕」が置かれていた当時の状況ということに気づいた。そして、最後のまとめを行っていた。また、当時の状況を理解しながら、再度「僕」から離れ、それでも我慢することについて考える生徒もいた。登場人物の心情を把握する学習から、作者の心情、作品のメッセージ、主題へとせまるようになった一時間であった。

おわりに

教師が教えたことをいかに生徒が学びたいこととしてとらえられるか、そして、国語の授業を通して学んだことを生徒がいかに自覚できるかが、これからの国語科の課題ではないだろうか。授業離れを防ぐ手立てとして、生徒とともに学習内容や学習活動を決定し、活気あふれる国語教室を創造していきたい。